

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100％）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80％以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60％程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60％程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
6. 教員・教員組織 【計画33】（総務人事部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「計画達成のための方策」 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況 【計画34】（企画部・教務部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の明確化を図った上で、FD活動を積極的に推進する。 「計画達成のための方策」 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。 「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動 の推進を図る。	Ⅳ	令和5年度の教員配置数は、250名（R6.3現在）、うち年度内の教員選考（採用）は、31名であった。欠員の補充は、内部昇格と外部採用を適切に組み合わせ、教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行った。	【年度計画33】 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。 「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況	Ⅳ	令和6年度の教員配置数は、247名（R7.3現在）、うち年度内の教員選考（採用）は、29名であった。欠員の補充は、内部昇格と外部採用を適切に組み合わせ、教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行った。				
	Ⅲ	1. 授業評価については、昨年度より令和4年度アンケートの回収率は0.6ポイント上昇（70.3%）した。学部別の集計結果を令和4年9月に学内及び大学ホームページにおいて公表し、科目別の集計結果は、授業開講キャンパス事務部経由で科目担当教員に渡し、担当教員からは、次年度の授業計画の改善等を学科長等への提出を求めた。 ・学修及び学生生活に関する実態調査については、令和4年度実施分の集計結果を、一般向けに5月に大学ホームページで公開した。 また、令和5年度調査は、12月に実施し、昨年度より10.7ポイント高い69.9%の回収率となった。	【年度計画34】 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。 「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況	Ⅲ	1. 授業評価については、昨年度より令和5年度アンケートの回収率は2.4ポイント上昇（72.7%）した。学部別の集計結果を令和5年9月に学内及び大学ホームページにおいて公表し、科目別の集計結果は、授業開講キャンパス事務部経由で科目担当教員に渡し、担当教員からは、次年度の授業計画の改善等を学科長等への提出を求めた。 ・学修及び学生生活に関する実態調査については、令和5年度実施分の集計結果を、一般向けに5月に大学ホームページで公開した。 また、令和6年度調査は、12月に実施し、昨年度より9.7ポイント高い79.6%の回収率となった。				
	Ⅳ	2. 令和5年度においては、10月25日（水）に理事長講話及び学科発表（医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科）の内容で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信で実施し、各参加数の合計は100%であった。 アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答は合計98.0%で、好評の結果であった。	2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。	Ⅳ	2. 令和6年度の「東京医療保健大学を語る会」については、10月23日（水）に対面、Zoom及び後日オンデマンド配信の形で実施した。当日は、まず理事長から講話の後、学長及び事務局長より、令和7年度に受審する大学基準協会認証評価に向けた本学の取組等について説明があった。当日及び後日オンデマンドの参加数の合計は100%であった。 アンケート結果として、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が合計99.1%であり、参加者からの満足度は高い結果となった。				

79

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 ○各学部・学科・研究科等 【計画35-1】㊦(医療保健学部看護学科) 世界をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、「計画達成のための方策」 年2回のFD研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。 									

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-3】㊦(東が丘看護学部・看護学研究科) 全学的FD委員会との調整の上、FD、SD活動を推進する。 「計画達成のための方策」 1. FDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。	IV	1～6・FDマップに則した教職員に、社会的関心の高まりやホットイシューに関して外部講師を招いたFD研修会を3回、新着任教員研修2回、合計5回/年の研修会を企画・運営した。また、全学や各委員会で企画された研修（7回）について、FD委員会からも参加案内およびFDマップ利活用の案内、学外で行われた新任教員向けの研修会への参加案内とFDマップの利活用の案内も行った。これらの活動により、参加率や教職員のFDマップへの周知や利活用も高まってきたといえる。 ・2023度FDマップ対応表の達成率は、教育63%、研究54%、研究77%と、学内FD委員会企画以外の研修も推進し、FDマップを利活用することで、研修の充実性が高まったといえる。 ・FDマップに則した職員にFD研修を5回/年企画し、対面およびzoom開催としたことで、出席率も100%に近い状況であった。 ・全学との連携研修や他委員会で開催された研修との連携、学外で行われた新任教員向けの研修への参加案内、及びFDマップの利活用を促した。 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する外部講師による研修会の開催を3回/年企画・運営し、参加者からは研修内容や目標達成となり高評であった。内1回は全学FD委員会にも紹介し、他学部27名の参加者となった。 ・FDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施については、最終の研修会が3月12日となっており、今年度のFDマップ利活用に関する東が丘教職員へのアンケートは現段階では実施できていない。この研修会後にアンケートを実施し、アンケート結果に基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営方法検討する予定である。 ・FD活動参加については、当日参加できなかった教員はオンデマンドで動画視聴し、全員がアンケートに回答した。	【年度計画35-3】 1. FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 5. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 6. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したFDマップの運営方法検討。	IV	1～6・FDマップに則した教職員に、社会的関心の高まりやホットイシューに関して外部講師を招いたFD研修会を2回、新着任教員研修1回、学部内講師による研修2回の合計5回/年の研修会を企画・運営した。また、全学や各委員会で企画された研修について、FD委員会からも参加案内およびFDマップ利活用の案内、学外で行われた新任教員向けの研修会への参加案内とFDマップの利活用の案内も行った。これらの活動により、参加率や教職員のFDマップへの周知や利活用も高まってきたといえる。 ・さらにFDマップの利活用しやすいように今年度よりFDマップを電子化し、自己管理できるように取り組んだ。この評価として、利活用しやすく、達成度も把握できたといった評価を得ることができた。 ・2024度FDマップ対応表の達成率は、教育80%、研究90%、研究80%といった結果となり、昨年度よりも高まったことから、一層研修の充実性が高まったといえる。 ・FDマップに則した教職員に対し、社会的関心の高まりやホットイシューに関するテーマのFD研修を5回/年企画し、対面およびzoom開催としたことで、出席率や受講者の満足度も高く、研修目標の達成にもつながった。 ・全学との連携研修や他委員会で開催された研修との連携、学外で行われた新任教員向けの研修への参加案内、及びFDマップの利活用を促した。 ・FDマップの利活用を目指し、今年度よりFDマップの電子化に取り組んだ。電子化したFDマップに対してポジティブな反応もあったが、一方で、活用できていない教職員もいるため、アンケート結果に基づいて次年度において電子化したFDマップの運営方法を検討する予定である。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・FDマップに則した職員のFD研修の実施状況 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進状況 ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動状況 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催状況 【計画35-4】㊦(立川看護学部) 立川看護学部として、教員のFD企画、競争的研究費獲得に向けた支援の実施等及び立川市への公開講座の実施等により地域連携を図る。 「計画達成のための方策」 1. 他学部のFD企画にも積極的に参加できるように調整し、情報提供を行う。 2. 学外講師に依頼ができるように、FDに関する予算（5万/年）を捻出する。 3. 東が丘看護学部 FDマップを参考に、FDの企画・運営を行う。 4. 公開講座の時期と内容等について立川市と検討する。 5. リサーチマップ登録・更新方法のガイドを紹介する。 6. リサーチマップの登録のメリットと方法に関するFDを開催する。 7. 毎年度競争的研究費の受託件数を把握する。			「評価指標」 ・FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施 4～6回/年 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進(全学との連携研修開催 2回程度/年) ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動 4～6回/年 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催1～2回/年 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営 【年度計画35-4】 1. 学部単独のFD企画。年間3回（Zoom 2回、対面 1回） 2. 他学部と共同のFD企画。年間3回（Zoom 2回） 3. 学外講師によるFD企画。年間2回（Zoom 1回、対面 1回） 4. 立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5. 立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開。 6. 自己点検・評価報告書（立川）の作成。 7. 立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。			1. 学部単独のFD企画として、対面で4回実施した。内容は、授業マネジメントに関する授業評価に関する内容を段階的に実施し、教員間で意見交換を活発に行った。 2. 他学部と共同のFD企画は今年度開催できなかったが、外部で実施されているFD企画への参加推進や災害医療センターで実施されている研修会などに参加するように広報を行った。 3. 学外講師によるFD企画は学部単独では実施できていないが、大学全体で実施される外部講師によるFD企画への参加推進をはかった。 4. 市民公開講座として「脳を活性化して生涯健康な脳を維持しよう！」というテーマで11月に1回、親子を対象として「アロマでせっけんづくり」を8月に1回実施した。 5. 5月上旬に2023年度年報がUPされ、2024年度年報を作成している。 6. 8月に大学HP上に「令和5年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 7. researchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画が引き続き提供されている。科研費11件、学外助成金は5件、学内助成金は4件であり、前年度より多少増えている。			

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
8. 科研費申請に向けたFDを企画し、毎年度内容を改善していく。 9. 毎年2月ごろ次年度の「住民を対象とした活動」について各領域や委員会に活動を促すとともに、次年度の予定を確認する。 「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 【計画35-5】（千葉看護学部）DPを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のFD活動を積極的に推進する。 「計画達成のための方策」 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 教育経験の浅い教員を対象とした大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況 2. 学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をすることを意図したFD研修を行い、教育・研究能力向上に向けた相互の学びを深めるとともに、大学・学部のDP達成に向けての課題検討の基盤を構築する。 「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況	Ⅲ	8. 自衛隊などが来校（7月）し、広報活動や災害実習の講義などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロジェクトはコロナの関係で進んでいない。今後は、ボランティア活動だけでなく、災害看護の講義・演習なども立川市や自衛隊、消防庁等と協力して行っていく予定である。	8. 地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。	Ⅲ	8. 「まちの保健室」の実施が難しく、地域と連携した企画が滞っているが、立川市と共同している公開講座等を通じて住民の健康増進に寄与していきたい。				
	Ⅲ	9. 今年度の発表状況（学会発表 62回、論文 22編）は、昨年度（学会発表 75回、論文 22編）と比較して、学会発表が少し減少しているようであった。教員構成の違いによる影響が考えられる。	9. 教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。	Ⅲ	9. 今年度の発表状況（学会発表 56回、論文 24編）は、昨年度（学会発表 62回、論文 22編）と比較して、学会発表が少し減少しているようであったがほぼ横ばいの状況である。				
	Ⅲ		「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 【計画35-5】（千葉看護学部）DPを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のFD活動を積極的に推進する。						
	Ⅲ	1. 基礎的FDに参加している14名の教員の進捗管理・支援を行い、基礎的FDの研修会（教員交流会）を1回実施した（3月11日）。2024年度は、3月に1回開催できるよう計画的に取り組んでいく。	【年度計画35-5】 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 若手教員を対象とした基礎的FD研修会を開催する。（対象がある場合）（年2回） 「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況	Ⅳ	1. 令和6年度の基礎的FDの対象となった3名の教員の進捗管理・支援を行い、基礎的FD研修会および助教・助手教員交流会を1回実施した（3月11日）。令和6年度は、少人数でのグループワークを実施し、焦点を絞ったディスカッションを行うことができた。				
	Ⅳ	2. 3月13日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。	2. 学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体FD研修会を開催する。	Ⅳ	2. 3月13日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。令和6年度は、紙上報告を取り入れ、効率的な運営に取り組んだ。				
	Ⅳ		「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況						

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3. テーマに基づくFD研修会開催。 過去のFD研修の評価や、時々のトピックスを反映させた講演・グループディスカッションによるFD研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。 「評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況 【計画35-6】（和歌山看護学部） 教員の資質及びDP実現に向けた教育力向上を目指して教員のFD活動を積極的に推進する。 「水準達成のための方策」 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とDPの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。 「評価指標」 ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。 「評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況	IV	3. 8月17日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「実習前CBT・実習前OSCEを取り入れたカリキュラムの実現の検討」というテーマでFD研修を行った。 ・また、3月14日に、カリキュラムプロジェクトとの共催で、春季FD研修を行った。 ・そのほかに、DXプロジェクトとの共催で、「516（多目的DXルーム）教室の利活用促進のための学習会を11月、12月、1月、2月の計4回実施した。	3. テーマに基づくFD研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解決に関連したテーマに基づく全体FD研修会を開催する。 「評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況 【年度計画35-6】 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。（対象に応じて開催回数を調整） ①教育経験の浅い教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年2回） ②新採用教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。（年1回） 「評価指標」 ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。テーマを決めて実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。（上記合わせて年1回） 「評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況	IV	3. 8月27日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「コンピテンシー基盤型教育（CBE）の考え方で本学部の実習科目を理解する」というテーマで、また、教務委員会との共催で、「新しい統合実習について」といテーマでFD研修を行った。 ・3月13日には、カリキュラムプロジェクトとの共催で、春季FD研修を行った。 ・そのほかに、10月15日に学生生活支援委員会との共催で、臨地実習における合理的配慮・教育上の調整が必要な学生の理解と支援について、10月18日に教務委員会との共催で、「2025年度以降の統合実習案について」、11月19日に実習委員会との共催で、「教員の実習指導力向上を目指すワーク」、などの共同FD企画を実施した。				
	II	1. 新任教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、時間をかけて説明した。 ・教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「組織的な研究（科研費等の外部資金研究）を目指し、研究経験の浅い教員の研究力向上を図るために必要な研究計画の立案につながる先行研究のリサーチ」として実施した。教員35名／43名、職員2名／17名、院生11名／18名（3名教員と重複）の参加があり、一部、二部とも好評を得た。後日、数名の教員は個別の研究相談を受けた。 ・研究費獲得のためのFDを1回、新任教員への説明会1回		III	1. 新任教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、令和6年度にオンデマンド（令和4年度実施のものを活用）を実施した。 ①教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「科研費を取ろう」（研究協力部主催）として実施した後日、数名の教員は個別の研究相談を受けた。 ②研究費獲得のためのFDを1回、新任教員への説明会を1回実施した。				
	II	2. FDとして実施できなかったが、領域長の会合において実習指導について、学生の受講態度について、教育への学年上の学生の参加（SA）についてなどの意見交換を行い、教育に反映した。 ・教学マネジメントについての研修を専門家を招いて実施し、38名が参加し、理解を深めた。 ・「ハラスメント研修」を昨年度からシリーズとして継続し、本年度最終ということで具体的な事例をもとに教員間のディスカッションも含めて実施した。対面で開催 35名（教員 330、職員 5名）で参加があり、好評を得た。 ・意見交換会を4回、教学マネジメント研修を1回実施した。		III	2. FDとして実施できなかったが、領域長の会合において実習指導について、学生の受講態度について、教育への学年上の学生の参加（SA）についてなどの意見交換を行い、教育に反映した。 ・「ハラスメント研修」を人権倫理委員会・衛生委員会が主催する「働きやすい職場にするためのハラスメント対策について」に教職員が参加した。 ・ルーブリック研修会（目的：ルーブリックの作成・ブラッシュアップ・応用力を向上させ、評価基準の明確化と多様な教育場面での適用を促進する）を1回実施した。教職員41名が参加した。 ・和歌山看護学部の教育理念・目的に基づき、「和歌山看護学部の教育理念・目的に向かって」と題し、教職員が一体となって教育の質を向上させることを目的とする研修会を1回実施した。教職員46名が参加した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3.教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。 「評価指標」 ・FDの実施状況 【計画35-7】㊦(大学院医療保健学研究科) 教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・研修会に参加できる調整を行う。職位に関わらず、一人年2回の学術集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。 「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年2回 【計画35-8】㊦(大学院千葉看護学研究科) 大学院における教職員の教育力の開発推進。 「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。 「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況	Ⅲ	3.研究協力部主催「令和5年度科学研究費助成事業説明会」への参加した。科研費獲得経験者に個別相談できることを教員に伝え、2名が相談を受けた。 ・他学部FD「医療系カリキュラムにおける知識教授を目的としたアクティブ・ラーニング」への参加、「教学マネジメント入門」を学部で実施した。 Ⅲ	3.教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。 「評価指標」 ・FDの実施状況 【年度計画35-7】 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年2回 【年度計画35-8】 大学院担当教員/職員を対象とした情報交換/研修会を、年2回開催する。 うち1回は他研究科との合同研修とする。 主たるテーマは、研究成果から見いだされた地域貢献とその発展①とする。 「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況	Ⅲ	3.研究協力部主催「令和6年度科学研究費助成事業説明会」へ参加した。科研費獲得経験者に個別相談できることを教員に伝え、教員が相談を行った。 ・「ルーブリック研修会」、「和歌山看護学部教育理念・目的に向かって」を実施した。 ・他学部FD「ルーブリック研修会」（医療栄養学科）、「ダイバーシティマネジメント」（医療保健学部看護学科）、「学長と語る会」（全学FDSD委員会）に参加した。 Ⅲ				
	Ⅲ	1.各領域における3Pを作成し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院として検討後、運営している。 2.学部・大学院の一貫教育の導入は、現状の中では導入に至る取り組みはしていない。 3.国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできているが、今後は国際学会への参加や発表まで至るように推進していきたい。 4.産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。 Ⅲ		Ⅲ	1.各領域における3Pを再検討し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院の各領域別に検討後、全体で集約検討している。 2.学部・大学院の一貫教育の導入は、社会人対象となっているため現状の中では導入に至る取り組みはしていない。 3.国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表できるように取り組んでいるが至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできているが、今後は国際学会への参加や発表まで至ること、また、投稿に繋がってきているが論文審査を受けて合格した論文は前例投稿できるように推進していきたい。 4.産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。 ・学術集会参加 一人年2回 学会はほぼ全員が参加に繋がっている。 Ⅳ				
	Ⅲ	・和歌山看護学研究科と共同し、大学院担当教員/職員および大学院学生等を対象とした講演とグループディスカッションからなる公開講座「Afterコロナ時代の新しい実習に向けて～参加型臨地実習の意義と課題～」を、11月23日（祝・木）に実施した。千葉看護学研究科からの参加者は教員23名、事務職員3名であり、事後アンケートからは、新たな時代に求められる臨地実習の在り方や運営課題についての学びが得られたことが示された。 ・学部と合同で、定期集中FD研修会・報告会を、3月14日（木）に実施した。全教員が出席し、ポスター発表として研究科における活動が報告された。（事後アンケート集約中） ・いずれについてもテーマは実装的な研究とその支援ではなく、将来を見据えた方向性を検討する根拠となる知見や実態の共有であり、研究支援に関してのFD実施が今後の課題である。		Ⅳ	・和歌山看護学研究科と共同し、大学院担当教員/職員および大学院学生等を対象としたFD・SD研修「リサーチクエスチョンを解くための方法論を考える」を、10月22日（火）に実施した。千葉看護学研究科からの参加者は教員33名、事務職員2名であり、事後アンケートからは、研究の可能性についての学びが得られたことが示された。 ・学部と合同で、春季集中FD研修会・報告会を、3月13日（木）に実施した。全教員が出席し、ポスター発表として研究科における活動が報告された。 ・次年度は、研究指導能力、または、教育力の育成・開発につながる内容を企画していく。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-9】㊦(大学院和歌山看護学研究科) 研究科を担当する教員の教育・研究指導能力の向上を図り、学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 大学院における教育・研究能力開発のためのFD研修を実施し、その向上を図る。 「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. DPを実現するための学部専門領域を横断的にした研究領域の編成を継続する。 「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指標」 研究発表・投稿状況 【計画35-10】㊦(助産学専攻科) 教員としての自己研鑽を図る。 「計画達成のための方策」 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 「評価指標」 ・自己研鑽のための研修等の参加状況	III	1. 学部との合同FD/SDを実施した。 ・千葉看護学研究科との合同公開講座「Afterコロナ時代の新しい実習に向けて～参加型臨地実習の意義と課題～」を実施した。和歌山看護学部からは教員2名が参加した。	【年度計画35-9】 1. 大学院担当教員を対象とした研修会を、年2回開催する。うち1回は他研究科との合同研修とする。 「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. 教員の異動時に、研究領域の担当教員が学部の多様な専門領域で編成するように配慮する。 「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指標」 研究発表・投稿状況	IV	1. 大学院生および教員に対して、千葉看護学部との共同研修会を実施した。発表者の千葉看護学部の伊藤真理講師によるKJ法における研究法、和歌山看護学部の土井一浩教授による実験研究における研究法と幅広い研究方法について発表された。統計学についての外部講師（三重大学谷村普教授）の招へい講義の3回シリーズを、12月～1月に実施した。参加者は大学院生および教員、延べ人数103名だった。講義後のアンケートでは、「検定方法や解析手法を選択するための考え方など理解できた」「自己学習や研修などの参加を重ねていく必要性を認識した」など継続的な学習への意欲の向上にもつながっていた。研修内容の理解度についても90%以上の参加者が理解できたという反応だった。 2. 3分野に各専門領域の教員の配置をバランスよく行った。 3. 教員は学部との兼務であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼任教員の研究成果は、概算であるが、論文掲載15件、著書4件、学会発表35件であった。 1. 年2回のFD研修に参加している。 2. 全国助産師教育協議会への出席（2名）と教育講演・厚生労働省技官からの講演を聴講し現在の助産学教育の現状と課題を学習した。 3. 4. 全助教で企画している全国研修前の評価者研修に教員4名が参加している。 5. チーム医療研修への教員が3名参加して自己研鑽している。 ・産婦人科医師による裂傷縫合の演習を施設の助産師、医師及び本学学生20名が演習を通して学んだ。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画36】（研究協力部） 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。 「計画達成のための方策」 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 「評価指標」 ・ ジャーナル等への 投稿 及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数 【計画37】（総務人事部） 教員の教育研究活動等の実績・成果について、教員個々の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目について、学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。 「計画達成のための方策」 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催する FD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。	IV	・ 紀要第18巻の作成にあたり、前年度の反省を踏まえて、小西紀要委員会委員長からの学部長等会議で督励を行い、投稿申請と論文投稿の締切日を分離した結果、投稿申請が29件と大幅に増加した。残念ながら、原稿投稿は21件にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は18件となったが、前年に比べると1.5倍、プラス7件の掲載となった。	【年度計画36】 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的に行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。 「評価指標」 ・ ジャーナル等への 投稿 及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数	III	・ 紀要第19巻の作成については、前年度同様に小西紀要委員会委員長から、学部長等会議で督励を行ったほか、メールでの学内周知、申請締め切り日の延長等行った結果、昨年(29件)を上回る33件の応募があった。残念ながら、原稿投稿は20件にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は昨年度と同数の18件となった。				
	III	1. 教員の授業参観実績の同僚評価（ピアレビュー）については、一部の学科で実施され、全学FD委員会を通じて、横展開も行われている。また、毎年的人事面談の中で、ピアレビューに限らず、公開講座の講師などを委嘱された場合など、教員の実績として、教員教育表彰へのエントリー受付時の実績報告の中で記載を促している。 なお、8月に開催された全学FD委員会では、各学科の行うFD関係の講演会、研修会などは、全員が最低一回以上は参加していることが報告されている。	「年度計画37」 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 等が開催するFD 関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。	III	1. 教員同士による授業の相互評価（ピアレビュー）は、特定の学科で導入されており、全学FD委員会を通じて他学科への導入も推奨。 また、毎年的人事面談の機会には、ピアレビューに限らず、公開講座の登壇実績なども含め、教育活動全般の取り組みを「教員教育表彰」の応募に向けて記録するよう働きかけを行っている。 加えて、全学FD委員会では、各学科主催のFD講演会や研修に、すべての教員が年に1回以上参加している。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	IV	2. 助教以上の全教員から、5月に令和3年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションプランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実績評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処遇に反映させた。令和5年度は10名が選出され、12月5日に表彰式を行った。	「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況 2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。 「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況	IV	2. 助教以上の全教員から、5月に令和5年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションプランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実績評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処遇に反映させた。令和6年度は10名が選出され、8月28日に表彰式を行った。				